

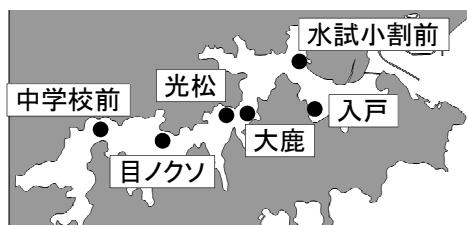
プランクトン調査結果のお知らせ

平成25年7月10日午前9時から浦ノ内湾の調査を実施しましたので、結果をお知らせします。
透明度は2~5mで、目ノクソから湾奥側で着色が見られました。検鏡の結果、魚類に対して非常に有害なシャットネラ属が最高4,840cells/ml確認され、漁業被害が想定される細胞密度を超えていました。餌止めを行う等、慎重な養殖管理をお願いします。有害種カレニア・ミキモトイ及びデイクチオカ・フィビュラは前回調査時(H25.7.8)よりも減少していました。
海や養殖魚の状態に変化や不安を感じた時は、中央漁業指導所か水産試験場まで連絡してください。

- 【注 意 点】**
- プランクトンは鉛直運動するため、午前中潮色が良くても、午後から着色する危険性があります。
 - プランクトンは潮流や風の影響で移動する危険性があります。

	水深	シャットネラ属	カレニア・ミキモトイ	デイクチオカ・フィビュラ	ケラチウム属	ケイ藻類
中学校前	0m	0	0	0	0	220
	1m	206	1	0	0	220
	2m	4,840	29	0	8	160
	5m	1,710	2	4	4	320
目ノクソ	0m	1	0	0	0	80
	1m	1	0	0	0	120
	2m	1,350	0	9	2	240
	5m	490	15	410	4	700
光松	0m	2	0	0	0	80
	1m	0	0	1	0	440
	2m	54	0	0	0	1,300
	5m	610	7	220	0	1,620
大鹿	0m	0	1	1	0	130
	1m	16	0	1	0	520
	2m	323	1	9	0	1,320
	5m	106	33	134	15	1,120
水試小割前	0m	0	0	0	0	1,200
	2m	4	0	0	0	980
	5m	11	1	14	0	760
入戸	0m	1	0	1	0	1,570
	2m	6	0	3	0	1,180
	5m	66	0	21	0	1,020

(cells/ml)



- 漁業被害が想定される細胞密度**
- カレニア・ミキモトイ: 数百~数千cells/ml(へい死)
 - シャットネラ属: 10~100cells/ml(へい死)
 - デイクチオカ・フィビュラ: 赤潮発生時(へい死)
 - ケラチウム属: 100cells/ml(餌食いの悪化)